

音楽（一般）

項目	観点	教科書名
		中学音楽 音楽のおくりもの（17・教出）
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○感性を働かせ、音楽表現を生み出したり音楽を聴いたりしてそのよさや美しさを見いだす力を養うために、どのように配慮されているか。	・主要教材の学習に関連する楽曲が、タイトル「比べてみよう」や「深めてみよう」のページに取り上げられており、生徒が様々なジャンルの音楽に触れることができるよう配慮されている。 ・初めて学習する音楽に関する用語や記号を各教材の見開き右ページ(右端)に示したり、学習活動の補足説明をキャラクターの吹き出しで説明していたりして、豊かな音楽の表現となるよう配慮されている。 ・各学年の「Let's Sing！」において、息のコントロールや母音の発音、変声や合唱の演奏形態、音楽の構造と関わる旋律のまとまり、形式に関するフレーズなどの説明が掲載されており、歌唱の基礎的な技能について習得できるよう配慮されている。 ・各学年で学習する複数の鑑賞主要教材を比較する教材「何が同じで、何が違う？」が扱われており、それぞれの音楽の特徴について考えることで、音楽の様々な表現の美しさやよさに気づくことができるよう配慮されている。 ・鑑賞教材のページに設けられている「どんな特徴があるかな？」のコーナーにおいて、音楽を形づくっている要素を示してどのような点に着目して音楽を鑑賞すればよいか活動を導いており、曲のもつ美しさや特徴などを感じ取る鑑賞能力の基礎を養うことができるよう配慮されている。 ・タイトル「Let's Try！」のページでは、声や身近な楽器を取り入れた表現活動を設定しており、生徒が既習の楽曲をもとに感性を働かせながら音楽づくりができるよう配慮されている。
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びの実現にむけて、どのような工夫が見られるか。	・具体的な活動内容が各教材で同じ場所に記載されており、生徒が「どのように学ぶのか」見通しをもって主体的に学ぶことができるよう工夫されている。 ・役割をもったキャラクターの吹き出しにヒントが示されており、自分の考えを広げたり深めたりできるよう配慮されている。また、どのような内容について話し合ったらよいかを例示し、対話的な学びから深い学びへとつなげていけるようになっている。 ・タイトル「比べてみよう」や「深めてみよう」のページにおいて主要教材に対する参考曲が掲載されており、どのような関連がある楽曲なのか、生徒が思考・判断しながら深い学びに向かうよう工夫されている。 ・グループ活動が設定されている教材のページに、自分の考えや友達と話し合った内容を記入できるワークシートが準備されており、他者との対話的な学習が充実するよう工夫されている。 ・創作活動では、イメージを共有したりイメージに合った音楽をつくったりするワークシートが準備され、対話的で協働的な学びを促している。 ・「学びのユニット」の図において各教材で扱われている「音楽を形づくっている要素」を明確に記載されており、音楽的な見方や考え方をもとにした言語活動を生徒が主体的に進められるような工夫が見られる。 ・和楽器や口唱歌を取り入れて、表現活動と日本の音楽の鑑賞活動を関連させて学習することで、深い学びへとつなげることができるよう工夫されている。 ・教材ごとにQRコードで教科書出版社のウェブサイトアクセスすることで学習に役立つ情報を得られるようになっており、生徒一人一人が主体的に深く学ぶことができるよう工夫されている。
3 配列・分量	○表現教材及び鑑賞教材の構成・配列や内容の系統性については、どのような特色があるか。	・義務教育9年間の領域の系統性を重視し、基礎的・基本的な知識の習得から発展的な内容の習得へとつながるような特色がある。 ・題材（「ユニット」と称する）は、1年と2・3年上で10ユニット、2・3年下では8ユニットで構成されており、それぞれ1ユニットの中に主要教材と関連教材が含まれ、生徒の実態に応じて多様な学習プランが検討できるようになっている。 ・歌うためのワンポイントアドバイス「Let's Sing！」は、全学年を通して歌唱教材と関連付けて配列されている。 ・全学年において「音のスケッチ」というページが、創作教材の次のページに連続して配列されている。 ・学習指導要領に示されていない内容が「発展」として全学年に取り上げられており、発展的な学習をすることができるようになっている。 ・各学年で「ACTIVE！すすんで学び合おう」の教材が3つ取り上げられており、協働的に学ぶことを重視した構成となっている。 ・鑑賞教材は、中学生の音楽1では弦楽器を中心とした小編成の楽曲、2・3上では大編成のオーケストラの楽曲、2・3下では舞台芸術の楽曲が扱われ、発達段階(学習段階)に応じた内容の配列になっている。 ・多様な音楽のおもしろさを比較できるよう、「何が同じで、何が違う？」のページを全学年に統一して配列している。 ・主要教材で学んだことを生かしてより深い学びとなるよう、「比べてみよう」の教材の後に「深めてみよう」の教材を配列している。
4 表記・体裁	○楽譜や歌詞、挿絵、写真などの表記、表現について、どのような工夫が見られるか。	・鑑賞教材の簡略譜を掲載し、楽曲の全体像がつかみやすいよう工夫されている。 ・歌唱は「赤」、創作は「緑」、鑑賞は「青」といった「学びのユニット」の図で使用している色を関連する教材のページでも同様に使用し、学習のねらいや活動内容が色別で分かりやすく示されている。 ・全学年の共通教材で、作曲家や作詞者のページが楽譜とは別に独立して掲載されている。 ・背景や写真の前面にある楽曲名や歌詞は、その色とのコントラストから文字の色を変えて誰にでも見やすく配慮されている。 ・全学年で巻頭ページに共通教材の歌詞や楽曲ゆかりの地の写真を掲載し、楽曲のイメージを膨らませることができるよう工夫されている。 ・全学年で巻頭ページに作曲家からのメッセージや楽曲にまつわるエピソードを掲載し、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。 ・生徒が確認しながら学習に取り組むことができるよう、全学年でリコーダーの運指表とコードネーム表が掲載されている。 ・巻末に、折り込みを利用した3ページにわたる楽器についての資料や舞台芸術の写真が掲載され、多様な情報を得ることができるように工夫されている。 ・曲名を大きな字で示し、注目しやすく読みやすいよう配慮されている。 ・全ての鑑賞教材において音楽史の時代区分を「音楽史ナビ」として右ページの端に表記し、作曲家の情報を他の楽曲と比較しながら学習できる工夫がされている。 ・学習に役立つコンテンツを見ることができるQRコードが掲載され、「まなびリンク」の印が付いている教材では、楽曲の模範演奏の視聴や、プロの演奏家による演奏を聴くことができるよう工夫されている。 ・特別支援教育の観点から、色覚の個人差を問わないカラーユニバーサルデザインを取り入れたり、ユニバーサルフォントを使用したりして、誰もが学習しやすい教科書の工夫がされている。 ・表紙や裏表紙に鑑賞教材に使用される楽器等のイラストが掲載されており、1年間で学習する内容を視覚的に確認することができる。
		中学生の音楽（27・教芸）
		・各教材のページに「学習目標」「活動文」「音楽を形づくっている要素」「用語や記号」が表示されていることにより、生徒が主体的に音楽活動に取り組めるよう配慮されている。 ・QRコードがそれぞれの楽曲のページに掲載されていることで、動画や音声を活用して情景を思い浮かべたり演奏のポイントをつかんだりして、楽曲のよさや美しさを感じ取ることができるよう配慮されている。 ・キャラクターの吹き出しに活動のヒントが掲載されており、自然に生徒の気付きを導きながら表現・鑑賞・創作の活動が進められるよう配慮されている。 ・伝統芸能や民謡の教材において、実際に音楽の一部を体験するコーナーや、同世代の中学生の取組のインタビューや写真が掲載されており、生徒が興味・関心をもって学習に取り組むよう配慮されている。 ・「2・3下」において、同じ演目（「勸進帳」）をもとにした能、歌舞伎、文楽の表現の特徴を比較しながら、日本の伝統的な音楽のよさを味わうことができるよう配慮されている。 ・我が国の伝統的な楽器を用いた鑑賞教材では、楽曲と関連付けた歌唱(口承や謡)を体感する活動をセットで掲載しており、日本の伝統的な誦い方や声の出し方のよさを見い出せるよう配慮されている。 ・創作において、「My Melody」や「Let's Create！」の2つの教材を取り上げており、手順を分かりやすく提示して主体的に活動できるような配慮が見られる。
		・学習目標と活動内容が各教材の楽曲名の下に記載されており、生徒が「何について学び、到達目標は何なのか」を明確にして主体的に学ぶことができるよう工夫されている。 ・キャラクターは疑問を投げかけたり気付きをつぶやいたりする子ども役と、ヒントを与えたり次の活動へ導くつぶやきをする教師役に分かれており、生徒がグループ活動のイメージをつかんで主体的に学習できるよう工夫されている。また、どのような内容について話し合ったらよいか例示し、対話的な学びから深い学びへとつなげていけるような工夫が見られる。 ・楽器に関する専門的な知識や音楽の歴史的背景等を、巻末ではなくそれぞれの教材のページと一緒に納めており、生徒が主体的に技能の習得や調べ学習に取り組む深い学びへとつながる配慮が見られる。 ・グループ活動が設定されている教材のワークシートは、自分の考えや友達の考えを記入できる枠が設けられており、対話的・協働的な学びから深い学びへとつなげられるよう工夫されている。 ・「音楽を形づくっている要素」が各教材ごとに記載されており、音楽的な見方や考え方をもとに言語活動を生徒が主体的に進められるような工夫が見られる。 ・タイトル「My Melody」（音のつながり方）や「Let's Create!」（音素材の特徴と構成）の創作活動の教材が全学年において段階的な内容で取り扱われており、創作の手順を示したワークシートが準備されているため見通しをもって主体的に活動できるよう工夫されている。 ・生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育むため、音楽と他の芸術や文化と関わりを紹介するページが掲載され、音楽について深く考える工夫が見られる。 ・教材ごとにQRコードで教科書出版社のウェブサイトアクセスでき、学習に役立つ情報を得られるようになっており、生徒一人一人が主体的に深く学ぶことができるよう工夫されている。
		・「音楽を形づくっている要素」との関わりを中心とした題材や、我が国の伝統的な音楽の系統的・発展的な学習の設定等、義務教育9年間を見通した段階的・系統的な学習により基礎的な知識や技能の習得が図れるような特色がある。 ・題材は、1年では16題材、2・3年上では18題材、2・3年下では16題材が扱われ、ねらいに即した学習内容や関連教材を数多く掲載することで、生徒の実態に応じて学習活動の分量を弾力的に増減できるように配慮されている。 ・「リズムゲーム」や「リズムアンサンブル」、「リズムチャレンジ」、「My Voice！」の4つの創作活動が各学年で取り扱われており、音符や休符を組み合わせながら基礎的な学習の習得ができるようになっている。中学校3年間において創作活動が系統的に行われるよう、各学年の学習段階に応じた内容となっている。 ・全学年の創作活動のページにおいて、創作の手順に沿った図や説明、書き込み式のワークシートが準備されており、3年間を通してプログラミング的思考を育成できるような工夫が見られる。 ・関連する表現の教材と鑑賞の教材がそれぞれ前後のページで配列されており、表現と鑑賞の一体化を目指した学習が取り組みやすい特徴がある。 ・全学年において「音楽を形づくっている要素」を掲載したページが入っており、1年間で学習した要素を振り返ることができるような構成となっている。 ・各学年において、発達段階に応じたポピュラーソングやなじみのある英語の曲を取り扱っている。
		・鑑賞教材の楽譜の特徴的な部分に色を付けて示したり、歌唱教材の楽譜と併せて実際の風景の写真を掲載したりして、音楽の特徴やイメージを視覚的に捉えやすいよう工夫されている。 ・「学びの地図」では、音楽科で身に付けたい資質・能力とそれらに対応する学習内容や教材を図で示し、中学校3年間を通して身に付けたい力が詳しく掲載されている。 ・歌唱は「緑」、創作は「青」、鑑賞は「赤」といった図「学びの地図」で示されている色遣いが、それぞれの教材に同じ色でリンクしており、すべての生徒の色覚特性に配慮されている。 ・視認性を高めるため、背景を白地にして文字を黒で記し、教材名ならびに目標や学習内容は黒で表記している。また、どの教材においても、項目別に同じフォントが使用されている。 ・特別支援教育や色覚特性の観点から、写真の配置の仕方に配慮したり、白を基調とした紙面に情報を掲載したりしている。また、背景や写真の前面にある歌詞は、その色とのコントラストから文字の色を変えて誰にでも見やすく配慮されている。 ・中学生が地域の人と共に祭りや芸能に携わる写真を掲載し、生徒が日本の伝統的な音楽への興味・関心を高めることができるよう工夫されている。 ・学習に役立つコンテンツを見ることができるQRコードを関連するページそれぞれに掲載して、動画や音声などの情報を視聴・閲覧することができるよう工夫されている。 ・教材の作詞者や作曲家、親しみのあるプロフェッショナルな演奏家からのメッセージや写真を巻頭ページに掲載することにより、興味・関心をもって学習意欲を高められるよう工夫されている。 ・各学年の表紙は、学校の日常生活の一部を表現した魅力的なイラストを起用し、音楽に対する生徒の関心を高める工夫がされている。 ・特別支援教育の視点に立ち、文字の中の空間を広くとったり濁点を大きくしたりしているUDフォントを教科書全体の9割以上に使用している。 ・各学年で「音楽ってなんだろう？」という音楽評論家からのメッセージや写真を掲載し、発達段階に応じて音楽への関心を高めている。